

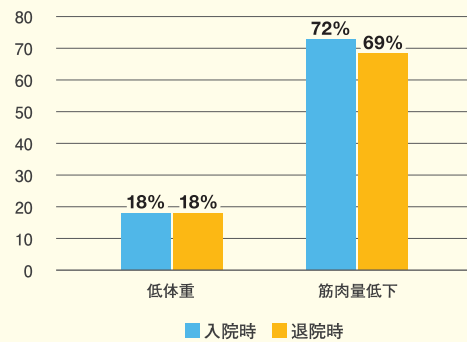


数字でみる錦海リハ

痩せていなくても筋肉量は低下している可能性があります！

平成30年度に入院された231名の患者さんのうち、InBody S10（高度体成分分析装置）を用いた計測ができた患者さんは、ペースメーカー使用中の方などを除き211名でした。そのうち、低体重の割合は2割ですが、筋肉量が低下している方は7割にもなります。見た目は痩せていなくても、実際にInBody S10を用いて測定してみると体脂肪率が高く筋肉量が低下している方は多いのです。

全国の回復期リハ病棟では退院時に低体重の割合が増加しているとの報告もありますが、当院では増加はみられません。また、筋肉量低下の割合も減少しています。しっかりと栄養を確保した上でリハビリを行うことがこのような結果に結びつくと考えます。



新任医師のご紹介

10月1日より、竹林香織医師が着任いたしました。

リハビリテーション科 竹林 香織（たけばやし かおり）
出身大学：兵庫医科大学 医学部

竹林先生から一言

多職種チームの一員として患者さんに寄り添いながら診療にあたります。よろしくお願いします。



竹林香織医師

専門雑誌・書籍掲載

IMADA Ken (共同) (理学療法士・リハビリ技術部課長)、他
Relationship of Quadriceps Muscle Thickness with Motor Paralysis and Muscle Echo Intensity in Post-Stroke Patients
European Neurology, Karger, 2019.6
岩田久義 (言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
摂食嚥下に関わる皆様への感謝と今後
日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、2019.8.31

外部講演

今田健 (理学療法士・リハビリ技術部課長)
各職場における研修システム
第54回日本理学療法士協会 全国学術研修大会、日本理学療法士協会主催、2019.5.26、徳島県
上村順一 (理学療法士)
血圧と運動習慣
第42回アクティブシニア健康教室、2019.6.14、米子市
竹内茂伸 (言語聴覚士・副院長)
シンポジウム 回復期リハ病棟 先輩者セラピストからの提言～錦海リハビリテーション病院開院後13年間のあゆみ～
第46回PTOTST研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2019.6.1-2、京都府
角田賢 (医師・病院長)
回復期リハビリテーション病棟総論
第120回全職種研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2019.6.15、大阪府
竹内茂伸 (言語聴覚士・副院長)
公開フォーラム 回復期リハビリテーション病棟における「口から食べる支援」
第37回日本顎咬合学会学術大会・総会、日本顎咬合学会主催、2019.6.22-23、東京都
長崎正義 (理学療法士)
認知症を予防するための知識と体操
第43回アクティブシニア健康教室、2019.6.28、米子市
竹内茂伸 (言語聴覚士・副院長)
シンポジウム 最後まで口から食べたい。回復期リハ病棟における医科歯科連携～言語聴覚士に求めること～
第20回日本言語聴覚学会、日本言語聴覚士協会主催、2019.6.28-29、大分県
北山朋宏 (作業療法士・リハビリ技術部課長)
実践セミナー「とっとり方式認知症予防プログラムの実習」
認知症予防専門士講座、日本認知症予防学会主催、2019.7.21、米子市
今田健 (理学療法士・リハビリ技術部課長)、遠藤美紀、足立睦未、烏谷香蓮 (理学療法士)
組織で取り組む腰痛予防は、再発率と欠勤日数を減少させる
鳥取県介護労働安定センター主催、2019.7.24、西伯郡
北山朋宏 (作業療法士・リハビリ技術部課長)
作業療法生涯教育概論
令和元年度前期現職者共通研修会、鳥取県作業療法士会主催、2019.7.28、米子市

北山朋宏 (作業療法士・リハビリ技術部課長)
身体介助の方法
失語症者向け意思疎通支援者養成研修、山陰言語聴覚士協会主催、2019.8.3、米子市
平野正樹 (作業療法士)
身体介助の方法
失語症者向け意思疎通支援者養成研修、山陰言語聴覚士協会主催、2019.8.3、米子市
永岡直充 (理学療法士)
高齢者肺炎のリスクと予防
第44回アクティブシニア健康教室、2019.8.9、米子市
足立睦未 (理学療法士)
日常生活で行う転倒予防体操
第45回アクティブシニア健康教室、2019.8.23、米子市
角田賢 (医師・病院長)
全身管理とリスクマネジメント-回復期リハビリテーション病棟におけるリスク管理
2019年度回復期リハビリテーション看護師認定コース、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2019.9.17、東京都

学会発表

北山朋宏 (作業療法士・リハビリ技術部課長)
転倒転落対策チーム「まくれん隊」の活動経過の一考察
三島将太 (作業療法士)
重度麻痺手に対する簡易型ダイナミックスプリントの効果について
第53回日本作業療法学会、2019.9.6-8、福岡県
世戸隆弘 (言語聴覚士)
心理的支援により義歯の不快感を克服し常食摂取可能になった一例～回復期病棟における歯科との協働～
木村誉 (理学療法士)
起立動作において表面筋電図による評価に基づき治療内容を修正した症例に関する報告
池内茜 (作業療法士)
自宅で湯船に浸かりたいと希望する症例に対する連携
第17回日本臨床医療福祉学会、2019.9.20-21、山口県

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針：わたくしたちは
回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行：社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL：0859-34-2300 [代表]
E-mail：kinkai-hp@kohoen.jp
URL：https://www.kinkai-rehab.jp

2019 VOL. 10

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院

地域包括ケア時代のリハビリテーション～地域の栄養管理をサポート～

回復期リハビリテーション病棟は創設20年目を迎えました

2000年に回復期リハビリテーション病棟が診療報酬で規定されてから20年目となります。この間、「寝たきりを防ぎ、自宅復帰を目指す」ことが回復期リハビリテーション病棟に求められる重要な使命であることは変わりありません。在宅復帰率、重症改善率、実績指数などのアウトカム指標が他の病棟に先駆けて回復期リハビリテーション病棟入院料に導入されたのも、この2つの目的をきちんと果たしているかを測る物差しとしてのものでしょう。



今年度より開始した地域のケアマネジャー向けセミナーの様子
角田賢病院長「地域包括ケア時代のリハビリテーション」

リハチームで患者さんの栄養管理に取り組んでいます

前回の診療報酬改定では、回復期リハ病棟に管理栄養士の専任配置とチームによる栄養管理が要件として新たに追加されるなど、栄養不足にともなうサルコペニアやフレイルといわれる筋力不足、虚弱が目目されるようになってきました。入院期間中は充実した栄養管理が実施されるようになり、病棟全体の栄養管理に対する意識も大きく向上してきたことを実感しています。さらに当院では体組成測定を全患者に定期的

に行うことでその栄養管理とリハの効果を客観的に評価することで入院中の栄養管理の充実に努めています。

しかし、患者さんの人生の中で考えてみると回復期リハ病棟に入院している数ヶ月の期間はごくわずかなもので、それに続く生活期を充実させるためのものでなければなりません。

錦海リハビリテーション病院では、リハビリテーション特化型の短時間通所リハビリテーションと訪問リハビリテーションをこの生活期を支える部門として開院当初から実施し、回復期リハ病棟退院後もその能力を維持向上させ、より充実した在宅生活を送るためのサポートを行ってきました。この在宅サービス利用者を見てみると、在宅復帰後の食事について悩んでいる方、体重が徐々に減少してしまっている方、逆にせっかく入院中に肥満解消できていたものがまた少しずつ体重増加してしまっている方など、生活期移行後の栄養管理の重要性を感じる利用者が少なくありませんでした。

管理栄養士による生活期サポート体制の充実を目指します

これに対して、今年度から新たな試みとして管理栄養士による生活期サポート体制の構築を目指していくこととしました。従来の厨房と栄養管理室を主戦場としていた管理栄養士のフィールドが病棟へと広がりましたが、さらにそれを在宅分野に広げていきたいと考え、今年度から生活期サポートを中心に活動する管理栄養士1名を増員しました。何が我々にできるのかまだまだ手探り状態ですが、一步一步着実に進めていきたいと考えています。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
病院長 角田 賢

KINKAI NEWS 10号発刊にあたって

KINKAI NEWSは、当院の紹介や活動の様子を地域の皆様へ情報発信するため2015年に創刊し、年2回発行してまいりましたが、今回で節目の10号となりました。今後もKINKAI NEWSはもちろんホームページ等も活用し当院の様々な情報の発信に努めてまいります。今後とも、よろしくお願いします。



SPECIAL 最前線 2

ケアマネジャー向けセミナー 開催のご案内

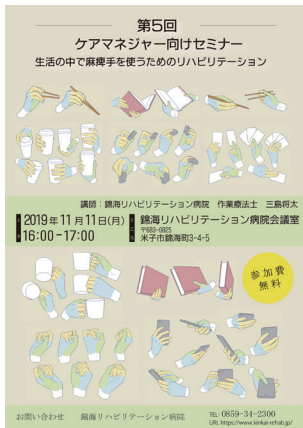
錦海リハビリテーション病院では、法人内外を問わず幅広い職種に対して地域包括ケアの考えに基づいたリハビリテーションの更なる浸透を図る目的にて2019年7月から全12回の予定で勉強会を実施しています。当院の会議室および研修室を会場とし、法人内の職員はテレビ会議システムを利用して参加しています。既に実施した勉強会のテーマは地域包括ケア（病院長）、自動車運転評価（作業療法士）、訪問栄養指導（管理栄養士）、失語症（言語聴覚士）、訪問リハの取り組み事例（理学療法士）であり、法人外の44事業所から実人数74名、延べ人数126名の参加がありました。今後は認知症、難病、嚥下障害、家族指導、家屋改修等をテーマに実施する予定です。



佐藤玲子言語聴覚士
「失語症に対する取り組みと失語症サロンスマイル」



サテライト中継会場の様子



次回11月11日(月)は「生活の中で麻痺手を使うためのリハビリテーション～具体的事例を通して考える～」をテーマに開催予定です

今年度の予定

第5回 2019年11月11日(月) 第8回 2020年2月10日(月)
第6回 2019年12月9日(月) 第9回 2020年3月9日(月)
第7回 2020年1月9日(木)

いずれも16時～錦海リハビリテーション病院会議室で開催いたします。
ケアマネジャーはもちろん様々な職種の皆様のご参加をお待ちしております。

問合せ先：錦海リハビリテーション病院
TEL：0859-34-2300 ※事前申込は不要です。

SPECIAL 最前線 3

錦海リハビリテーション病院 大学院での学びをサポート

錦海リハビリテーション病院は勤務をしながら大学院で 学びたい職員をサポートしています。

当院に勤務しながら大学院で学んだ職員は11名（言語聴覚士3名、理学療法士7名、作業療法士1名）であり、内2名は今年度より在学中です。自分自身が勤務しながら大学院を修了した経験を持つリハビリテーション技術部の課長（理学療法士）によるサポートによって、各自が勤務と大学院における学習の両立を図っていく具体的なイメージを描いた上で進学に至りました。通学が困難で諦めかけていたところを通信制で学ぶ方法もあるとアドバイスを受けて進学した職員や、医療情報の分析を専門とした学科を専攻して修了後に診療情報管理士を取得した職員、修士課程を経て博士課程へ進んだ職員もいます。



村上英里作業療法士（北海道医療大学在学中）
と野坂進之介理学療法士（広島大学在学中）

野坂進之介 理学療法士のコメント

私の大学院における研究テーマは「認知症」です。認知症を有する患者さんは年々増加しており、私が初めて担当した患者さんも認知症がありました。当院では定期的にそれぞれテーマを持ち寄り発表する機会があり、自己学習したことを院内で発表してきたことが認知症への関心をさらに強める機会となりました。

同じ部署内に大学院を卒業した上司、先輩が4名いることから、適時アドバイスや相談に乗ってもらえるなどのサポートを受けながら通学することができています。

野坂進之介（リハビリテーション技術部 理学療法士）

村上英里 作業療法士のコメント

私は大学院にて「高次脳機能障害」を専攻しております。高次脳機能障害は脳血管障害の後遺症として出現しますが、眼には見えにくい後遺症のため、症状の理解が難しい分野でもあります。そのため、この分野の研究をすすめることで、患者さんの社会参加に貢献できる可能性を感じております。

遠方の大学院への進学には職場・家族の協力と大学院の理解が必要です。多くの方々のご支援を受け、臨床と研究の双方で精進させて頂いています。

村上英里（リハビリテーション技術部 作業療法士）

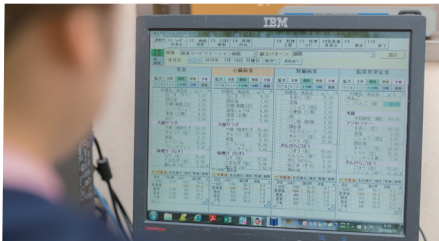
SPECIAL 最前線 4

栄養管理室の紹介 管理栄養士のお仕事

回復期リハビリテーション病棟での管理栄養士の仕事を 紹介します。

回復期リハ病棟では入院時に車椅子だった方が歩行できるようになるなど、日々活動量は増加していきます。食事摂取量や体重・筋肉量だけでなく、リハビリの内容や病棟での様子を知らなければ、活動量や退院時の目標に合わせた適切な栄養管理は行えません。ほぼ全員の患者さんを1週間ごとに評価し、多職種と連携することでより良い状態での退院につなげられるよう努めています。

また、糖尿病や高血圧、低栄養の方などを対象に年間40件以上の栄養指導を行っています。退院後の患者さんやご家族のライフスタイル等に合わせて一人ひとり異なった資料を作成し、食生活の改善が行えるよう指導をしています。



患者さんの病状に合わせた栄養管理

食事では、鮮魚イベントで刺身や天ぷらを毎月、和食専門調理師が考案した特別メニューを年2回提供するなどし、食事を楽しんでもらえるよう力を入れています。



定期的に専門調理師によるスペシャルメニューや山陰で水揚げされた新鮮な魚を提供する取り組みをおこなっています。写真は「うな丼」と「境港サーモンのお刺身」です。

在宅の訪問栄養指導を始めました！

当院では2019年5月より管理栄養士を1名から2名に増員し、入院患者さんの栄養管理だけでなく、在宅の訪問栄養指導も行っています。通院や通所が困難な方のためにかかりつけの医師の指示のもと、管理栄養士が訪問し、その人に合った食事の提案や指導を行っています。かかりつけ医やケアマネジャー等の多職種と連携しながら在宅の栄養ケアに取り組んでいます。



療養中の食事や
栄養のこと等
いつでもご相談ください！

TOPICS 01

病院機能評価更新受審に向けた キックオフを行いました

2019年10月1日(火)に病院機能評価の更新に向けたキックオフ・ミーティングを開催しました。病院機能評価とは、組織全体の運営管理および提供される医療について、中立的、科学的・専門的な見地から評価を行う第三者評価の仕組みです。

当院は2015年10月に「本体審査」と、県内で初めて更に高い基準の「付加機能評価」の認定を受けており、いずれも来年度が更新年にあたります。「付加機能評価」は本年10月に「高度・専門機能」と名称も新たに、地域において高い水準の回復期リハビリテーション機能を担う病院であることが求められ、現在の医療情勢に適した内容へと改定されています。

当日は角田賢病院長のキックオフ宣言、廣江研理事長からのビデオメッセージにより、更なる医療の質改善と更新認定を目指す契機となりました。



キックオフ・ミーティングの様子
本体審査「リハビリテーション病院＜3edG;Ver2.0＞」、
高度・専門機能「リハビリテーション回復期＜Ver1.0＞」の受審にチャレンジします

TOPICS 02

こうほうえん職員旅行へ参加しました

当法人では福利厚生の一環として、毎年職員旅行が計画されています。職員旅行では、本部・さかい・よなご・なんぶ・いなば・北東京・南東京・西東京・錦海リハ病院の法人内各エリアを超えた職員の親睦を深めることができますし、法人から一部補助を受けての家族同伴も可能です。

今年度は、「北海道 知床・道東」を皮切りに「沖縄県 石垣島」「東京都」「山陰」「台湾」「ハワイ」が計画され、当院の職員も家族とともに参加しています。

「北海道 知床・道東コース」に参加した星山望作業療法士から一言

一番癒されたのは知床半島の絶景を海から見る、知床クルーズです。滝や変わった形の岩を間近で見ることができとても迫力がありましたし、デッキで海風を浴びながら雄大な景色に囲まれてボーッと過ごす時間は非常に贅沢で、1時間半があっという間でした。遠目に野生のヒグマを見ることができました。現代社会に疲れている方にはぜひお勧めです！



「北海道 知床・道東コース」の参加者の集合写真